

# ふなかわら

第10号

1997年12月25日 発行

編集・発行 小原 侃

〒162-0826

新宿区市谷船河原町12

東京理科大学薬学部内

TEL・FAX 03-3260-6715

印刷・菅原印刷株



## 目 次

|               |    |                        |    |
|---------------|----|------------------------|----|
| 同窓会会长挨拶       | 2  | 同窓会総会・特別講演「Disclosure」 | 12 |
| 学部長挨拶         | 3  | 会則の改訂                  | 13 |
| 薬学部職員名簿       | 4  | 同期会だより                 | 14 |
| 大学の現状(在校生・進路) | 5  | 同窓会役員名簿                | 15 |
| 入会率           | 6  | 同窓会幹事連絡先               | 15 |
| 実践社会薬学        | 7  | 「歩こう会」のご案内             | 16 |
| 会計報告          | 11 |                        |    |

# 同窓会会長挨拶

東京理科大学薬学部同窓会会長 小原 侃

1987年（昭和62年）に新宿区大久保のホテル海洋にて開催された同窓会設立総会を経て翌年の第1回総会から正式発足した東京理科大学薬学部同窓会も、幾多の困難を乗り越え、本年、第10回の総会を無事終了することができました。同窓会設立の趣旨は設立に関わった人々により多少のニュアンスの違いはあるものの、薬学部創立当時の先生方が定年退職をされる時期にさしかかっており、また、その間、多くの卒業生を輩出しているにも拘わらず、卒業生と大学との繋がりが、大学に奉職する極く一部の方々を除いて極めて希薄であったことから、大学と卒業生との関係において卒業生を代表する組織として、薬学部同窓会の設立が切望されていた、という背景に基づくものと理解して大旨間違いないところと思います。

しかし、設立当時は勿論、つい最近に至るまでの約10年間の活動は同窓会の基盤作り、即ち、会員の募集による会運営資金の確保、会員名簿の作成、同窓会誌の発行などの活動を通じて薬学部同窓生の為の独立した同窓会組織の確立に、その大半が費やされて参りました。そして、本同窓会の最大の目的は薬学部同窓生間の相互理解、相互扶助を第一義として考えることにあり、その為の質素な親睦団体を目指して活動するという趣旨も漸く徹底、浸透してきたものと思っております。

しかし、昨今の医療を取り巻く激しい社会環境の変化、研究開発面の急速な発展は老いも若きも薬学に多少とも携わりのある人の全てが自ら大きな変化を遂げない限り、次代を切り拓くことができない、我々に大転換を迫る課題を投げかけてきました。これ迄とかく閉鎖的であり、国内志向で凝り固まっていた我が国の医療経済社会も行政から末端の薬店に至るまで、この問題をもはや避けて通れない時代になっております。基本的には国際社会との調和、相互理解の上でしか成立しない、透明性の高い経済活動が求められているのです。また、その根幹を支える研究開発も世界で通用する研究レベルと倫理性が求められていますし、営業活動もそれに準じた構造改革が求められており

ます。従って、薬学教育の内容も、最近は議論が下火になっているようですが、薬学部6年制が論議されるように、古色蒼然たるカリキュラムそのものから、より時代に則したものに変えていく必要があるでしょう。しかし、このような時代の変化についての情報は仲々大学の教育現場までは到達し難く、感度の良いアンテナは、寧ろ社会人となっている同窓生の中にあることが多い多々あるというのが現実のところでしょう。

こうした時代背景の中、折りも良く、昨年早々、第10期生前後の同窓会員から大学の講義、実習教育では網羅しきれない教育と現実社会とのギャップを補完することで少しでも学生諸君に薬学教育と社会での実践に関してより現実的イメージを持ってもらうことを目的に、同窓生がボランティア（無償）で講義をしたらどうかという提案が出され、大学側の積極的協力もあって、聴講単位の発行される正式の講座としての「実践社会薬学」が実現するに至りました。幸い、大方の反応も宜しいようで本年も10月18日から12月6日まで6週間に亘って開催されました。この同窓会の提案に対して胸襟を開いて対応を戴いた大学当局の英断に同窓を代表して深く感謝するものであります。約10年の歳月を要しましたが、これは同窓会が大学とのパイプとして機能した最初の成果ということになります。関係諸氏の御努力に深謝するものであります。その講義内容は同窓会誌「ふなかわら」第9,10号にて紹介されておりますので宜しく御参照下さるようお願い申し上げます。

こうして設立10年目を迎えた薬学部同窓会は本年の総会においてより効率的な活動を可能とし、本来の同窓会設立の趣旨を一つでも多く具現するために会則の改定と役員の増員、改選を行い新年度の活動に取り組んでいくことになりましたことを茲にご報告させて戴きます。

しかし、そのためにも会員諸氏の一層のご協力が不可欠であり、特に新会員の勧誘に格別の御配慮をお願いするとともに、皆様の益々のご発展を祈念してご挨拶とさせて戴きます。



## 学部長挨拶

# 薬学部同窓会・同窓生への期待

薬学部長 中村 洋

平成6年4月、滝谷昭司先生（薬品分析化学教授）の後任として着任し、右も左もよく分からぬまま、昨年10月より薬学部長を仰せつかっております。この大学に奉職して以来、常々薬学部教職員と同窓会の方々との交流や情報交換の機会が殆どないことが気になっておりました。この度、縁あって同窓会の幹事をしておられる武尾勝司さん（9期生；植化）から本紙に何か書くようにとのお誘いを戴きましたので、お言葉に甘えて同窓生の皆様に薬学部の最近の状況をかい摘んでお知らせしたいと思います。

先ず、ここ数年一番大きな動きは、理科大で薬学部だけに残っていた講座制が昨年4月を以て研究室制に変わり、教員も研究系と教育系に大別されたことです。それに伴い、従来の何某教室という呼称も何某研究室に変わり、新たに臨床薬学研究室と情報薬学関係研究室が誕生しました。前者は医療薬学教育の要であり、今春大学院に設置した医療薬学コースの教育母体となっております。一方、後者は理科大得意とするコンピューターを駆使し、薬学の新分野に挑む先兵です。因みに、今年度から新入生全員がノート型パソコンで情報処理概論や薬学情報科学を履修し、4年後には理科大に相応しい薬剤師の卵として卒業できるよう、カリキュラムが整備されたところです。

さて、私がいま強く意識しておりますのは、薬学部を活性化し、勉強も出来るが運動も好きな、元気の良い、バランスのとれた学生を育てることです。学部の活性化は即ち人の活性化に外なりませんが、何を始めるにしても人の和が一番大事です。そこで、日頃の運動不足の解消も兼ね、本年度から薬学部の運動会を始めることに決め、学生委員会（教員）、薬学事務課、実行委員会（学生）の協力のもと、第1回運動会を7月5日(土)に久喜キャンパスで挙行しました。

また、今年度から4年生全員が参加する卒業研

究合同発表会を始めることにしました。今年は、卒論生の研究を纏めた要旨集を作成し、12月22日(月)に10号館3階の学生実習室を使用して、ポスター発表形式で行う計画になっております。卒論生が座長、教員、大学院生、同僚、下級生とのディスカッションを通じて度胸と自信を着けてくれることを願っております。他方、教員の活性化については、平成8年度から大学の方針で学部学生を対象として「授業に関するアンケート調査」を行っています。ともすると、この種のアンケート結果は教員の評価に使われることが多いようですが、本学の趣旨は教員がより良い講義を行うための自己啓発にあります。先輩諸子のご努力により、理科大薬学部には全国の薬系大学でもトップクラスの新入生が集まる状況が続いておりますが、そのポテンシャルが少なくとも充分發揮されるよう、欲を言えばポテンシャルを一段と高められるよう、今後とも諸々の環境を整えて行きたいと考えております。

ところで、薬学部5号館は昭和35年の創設以来既に37年が経過しており、早晚立て直しが必要です。そこで、現在神楽坂近隣に1000坪の土地を確保し、地上12階、地下2階のビルを建設し、そこに薬学部が移転する計画が大学で検討されています。このプランは理学部1部・2部、工学部1部・2部、薬学部がひしめき合う神楽坂・船河原地区を今後10年位をかけて順次再開発し、快適なキャンパスを造る最初のステップとして位置づけられているものです。これから3年後の2000年には薬学部創立40周年を迎えます。その頃に薬学部の創立40周年記念事業をやっては如何かと個人的には思っておりますが、新校舎の完成祝いを兼ねられれば誠に喜ばしい限りです。近々、皆様に良いお知らせができる事を願っている次第です。

また、昨年度から、ご定年（65歳）を迎える先生には、学部行事として最終講義をして戴く

ことになりました。ご承知のとおり、本年3月29日(土)に大勢の方々において戴いて10号館で行われました、石倉俊治教授の最終講義がその先駆けでした。来年3月14日(土)には、上野芳夫教授(毒物学・微生物化学研究室)と田中信壽教授(植物薬品化学研究室)の最終講義(9:30~12:00)が予定されております。お二人の先生には教育・研究の両面で大変なご尽力を戴いており、感謝の言葉もありません。当日、また素晴らしい講義が拝聴できることを楽しみしております。同日の正午から引き続いだ記念祝賀パーティーもございますので、是非ともご来聴のほどお願い申し上げます。

以上、薬学部関係の動向をごく簡単に紹介致しましたが、本学部が次世紀に向けて一段と飛躍

するには、同窓会・同窓生の皆様のご理解とご協力が不可欠です。とりわけ、薬学部の山口穂子先生が事務局を務めておられる機関誌「ふなかわら」が果たす役割には大きいものがあります。率直なご意見、アドバイスを身近な薬学部教職員にお寄せ下さるよう、宜しくお願い申し上げます。  
(Fax No.03-3260-4941; E-mail:nakamura@ps.kagu.sut.ac.jp) (平成9年11月14日 記)



### 薬学部職員名簿

| 名前     | Title | 専攻部門      | 名前      | Title | 専攻部門   |
|--------|-------|-----------|---------|-------|--------|
| 宇留野 強  | 教授    | 臨床薬学      | 西 谷 潔   | 助手    | 臨床薬学   |
| 遠藤 次郎  | 講師    | 薬用植物      | 石 井 賢二  | 助教授   | 臨床薬学   |
| 塩川 大介  | 助手    | 生化学       | 石 坂 隆史  | 助手    | 情報薬学関係 |
| 奥 平和穂  | 助手    | 薬剤学       | 石 崎 幸   | 助手    | 薬化学    |
| 川村 理   | 助手    | 毒性学・微生物化学 | 浅 部 喜博  | 講師    |        |
| 海保 房夫  | 助手    | 情報薬学関係    | 村 形 政利  | 助手    | 薬化学    |
| 丸田 英晴  | 助手    | 生化学       | 村 松 延弘  | 講師    | 情報薬学関係 |
| 久保寺 昭子 | 教授    | 放射薬品化学    | 太田 黒喜代志 | 講師    |        |
| 久留正雄   | 教授    | 情報薬学関係    | 太 田 隆文  | 講師    | 情報薬学関係 |
| 原 博    | 助教授   | 臨床薬学      | 大 島 広行  | 教授    | 薬品物理学  |
| 袴塚 高志  | 講師    | 植物薬品化学    | 中 村 洋   | 教授    | 薬品分析化学 |
| 高尾 賢一  | 助手    | 薬品製造化学    | 中 村 輝子  | 助手    | 薬用植物   |
| 佐野 明   | 助手    | 薬品分析化学    | 中 島 大介  | 助手    | 薬品分析化学 |
| 砂金 信義  | 講師    | 臨床薬学      | 田 沼 靖一  | 教授    | 生化学    |
| 坂口 礼司  | 講師    |           | 田 中 信壽  | 教授    | 植物薬品化学 |
| 山口 稔子  | 講師    | 情報薬学関係    | 内 海 文彰  | 助手    | 生化学    |
| 志村 紀子  | 助手    | 放射薬品化学    | 武 田 健   | 教授    | 衛生化学   |
| 小野寺 祐夫 | 講師    | 情報薬学関係    | 芳 賀 信   | 助教授   | 薬剤学    |
| 小野秀樹   | 教授    | 薬理学       | 牧 野 公子  | 助教授   | 薬品物理学  |
| 小林 進   | 教授    | 薬品製造化学    | 本 多 基子  | 助手    | 薬理学    |
| 松岡 隆   | 助手    | 臨床薬学      | 林 正弘    | 教授    | 薬剤学    |
| 上野 芳夫  | 教授    | 毒性学・微生物化学 | 鈴 木 潤三  | 助教授   | 情報薬学関係 |
| 深井 文雄  | 講師    | 臨床病態学     | 鈴 木 真佐子 | 助手    | 衛生化学   |
| 杉浦 義紹  | 助手    | 毒性学・微生物化学 | 鈴 木 政雄  | 講師    | 情報薬学関係 |
| 星野 修   | 教授    | 臨床薬学      | 和 田 浩志  | 助手    | 情報薬学関係 |
| 清水 貴壽  | 助手    | 衛生化学      | 渕 野 裕之  | 助手    | 植物薬品化学 |

# 大学の現状

## 在校生

| 学部  | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 小計  | 大学院修士 | 1年    | 2年 | 小計 |    |    |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|----|----|----|----|
| 薬学科 | 男子  | 36  | 34  | 30  | 38  | 138   | 男子    | 39 | 34 | 73 |    |
|     | 女子  | 57  | 57  | 57  | 52  | 223   | 女子    | 6  | 12 | 18 |    |
|     | 小計  | 93  | 91  | 87  | 90  | 361   | 小計    | 45 | 46 | 91 |    |
| 製薬科 | 男子  | 46  | 43  | 44  | 39  | 172   | 大学院博士 | 1年 | 2年 | 3年 | 小計 |
|     | 女子  | 50  | 62  | 51  | 54  | 217   | 男子    | 2  | 2  | 4  | 8  |
|     | 小計  | 96  | 105 | 95  | 93  | 389   | 女子    | 0  | 0  | 2  | 2  |
| 合計  | 189 | 196 | 182 | 183 | 750 | 小計    | 2     | 2  | 6  | 10 |    |

## 97年卒業生進路

### 薬学科

オリンパス光学工業  
日本ベーリンガーインゲルハイム  
日本調剤  
キッセイ薬品工業  
養命酒製造  
ハックキミサワ  
全薬工業  
光製薬  
社団墨田中央病院  
長野市民病院  
イプサ  
日本生活協同組合  
ひすいエンタープライズ  
国立がんセンター  
富士薬品  
秀公会あづま脳神経外科病院  
日研化学  
清水製薬  
エーザイ  
社団光仁会梶川病院  
武田薬品工業  
東京都  
イトーヨーカ堂  
虎ノ門病院  
エルメッドエーザイ  
千葉県  
雪印乳業  
マツモトキヨシ  
三共  
くらぶ企画あすか薬局  
帝京大医学部附属病院  
万有製薬  
日本調剤  
水野薬局  
市立釧路総合病院  
㈳神奈川県総合リハビリテーション事業団  
茨城県

### 第一製薬

日本食品分析センター  
薬日本堂  
進 学  
東京理科大学大学院  
千葉大学大学院  
東京大学大学院  
京都大学大学院  
東北大学大学院  
金沢大学大学院  
東京薬科大学大学院

### 製薬学科

ユースキン製薬  
万有製薬  
味の素  
鐘紡㈱化粧品研究所  
協和発酵工業  
第一製薬  
薬樹  
大塚製薬  
日本グラクソ  
田辺製薬  
富士製薬工業  
(財)相模中央研究所  
東京田辺製薬  
中外製薬  
寿製薬  
三共  
ゼネカ薬品  
エーザイ  
小野薬品工業  
山之内製薬  
医健静会上田病院  
クラヤ薬品  
広島県  
上尾中央病院  
大日本印刷

### 大東化学

三協化学  
オートバックスセブン

富山化学工業

横河システムエンジニアリング

ソフトウエア興業

横浜ゴム

三井東圧化学

王子加工

協和発酵工業

栄研化学

Y K K

日本ゼオン

東電ソフトウエア

三菱ガス化学

エステー化学

キッセイ薬品工業

アキレス

トクヤマ

積水化成品工業

旭電化工業

杏林製薬

土屋工業

N T T

ダイセル化学工業

東レ

昭和電工

東京エレクトロン

日本電気ソフトウエア

荒川化学工業

山本製作所

進 学

東京理科大学大学院

岡山大大学院

東大大学院

京大大学院

東北大大学院

**大学院**

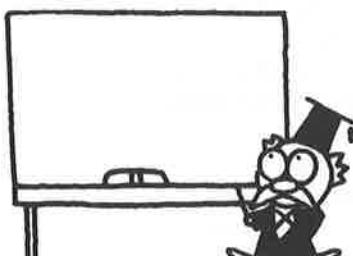
帝国臓器製薬  
住友製薬  
山之内製薬  
ヤクルト本社  
武田薬品工業  
日研化学  
ユニオン企画みどり薬局  
帝人  
日本たばこ産業  
日本製薬  
日本シェーリング  
東レ  
アルプス薬品工業  
ローヌ・プーラン・ローラー  
協和発酵工業  
三菱化学  
長野県  
サンド薬品  
厚生省  
田辺製薬  
富山化学工業  
医薬分子設計研究所  
第一製薬  
明治乳業  
大日本製薬  
小野薬品工業  
藤沢薬品工業  
ライオン  
理化学研究所  
東京田辺製薬  
ドクターサクライコスメチック  
日研化学  
キッセイ薬品  
ノボノルデックスファーマ  
東京理科大学  
北陸製薬  
大日本製薬  
参天製薬  
持田製薬  
日本グラクソ  
進 学  
東京医科歯科大大学院博士課程  
名古屋大大学院博士課程  
東京理科大大学院博士課程

**薬学部同窓会・年次別の入会者比率**

同窓会入会率（平成9年7月15日現在）

| 期  | 会員数   | 正会員数  | 入会率    |
|----|-------|-------|--------|
| 1  | 124   | 83    | 66.9 % |
| 2  | 139   | 97    | 69.8   |
| 3  | 160   | 73    | 45.6   |
| 4  | 135   | 72    | 53.3   |
| 5  | 183   | 86    | 47.0   |
| 6  | 191   | 57    | 29.8   |
| 7  | 190   | 63    | 33.1   |
| 8  | 156   | 48    | 30.8   |
| 9  | 174   | 60    | 34.5   |
| 10 | 169   | 49    | 29.0   |
| 11 | 181   | 68    | 37.6   |
| 12 | 250   | 73    | 29.2   |
| 13 | 177   | 44    | 24.9   |
| 14 | 192   | 44    | 22.9   |
| 15 | 139   | 35    | 25.2   |
| 16 | 175   | 44    | 25.1   |
| 17 | 183   | 42    | 23.0   |
| 18 | 199   | 42    | 21.1   |
| 19 | 159   | 25    | 15.7   |
| 20 | 185   | 41    | 22.2   |
| 21 | 188   | 44    | 23.4   |
| 22 | 188   | 47    | 25.0   |
| 23 | 179   | 42    | 23.5   |
| 24 | 189   | 37    | 19.6   |
| 25 | 160   | 20    | 12.5   |
| 26 | 169   | 24    | 14.2   |
| 27 | 200   | 19    | 9.5    |
| 28 | 241   | 16    | 6.6    |
| 29 | 178   | 15    | 8.4    |
| 30 | 180   | 6     | 3.3    |
| 31 | 200   | 8     | 4.0    |
| 32 | 176   | 13    | 7.4    |
| 33 | 200   | 10    | 5.0    |
| 合計 | 5,909 | 1,447 | 24.5   |

大学院 856 7 (特別会員)



# 97年度「実践社会薬学」講座

## ①「これからの医療と薬剤師」

(11月18日)

石井 甲一（11期）厚生省保険局

向井 呈一（11期）日本薬剤師会

飯島 康典（12期）イイジマ薬局

平成8年度に引き続き、実践社会薬学を担当した。今年は2回目でもあり、また、後期ということで落ち着いて出来たような気がする。昨年は行政の業務という点を中心にして、中央と地方の行政官の業務を長野県の谷さんと厚生省の私が90分ずつ講義をした。今年は、行政の仕事を伝えるという色合いを薄め、薬局、病院、企業において働く薬剤師を中心にし、1日目は総論を行うこととした。総論をどのような形で講義しようか多少悩んだが、昨年薬局グループがパネルディスカッション形式も採用したことを見聞き、総論にも入れてみようと考えた。メインテーマを「これからの医療と薬剤師」とし、2部構成で、1部は私と12期の飯島康典さんが講演形式を行った。私は、「行政からみた薬剤師への期待と責任」という観点から、実践社会薬学のねらい、自分の業務経験、これからの医療の変化と薬剤師を取り巻く環境の変化についてお話をした。1年生と2年生が多くたが、1年生にも理解できるように説明するのは、大変困難であった。また、テキストは昨年と同様のものを使用したが、昨年は90分であったのに対して今年は45分に押し込んだために、少し窮屈な講演になり、解りにくかったのではないかと反省している。次に飯島さんから、薬局開設者と薬剤師会の役員という経験を踏まえて、薬局経営の思想や地域薬剤師会の役割について、非常に具体的な講演を行っていただいた。長野県上田市は全国一のすばらしい医薬分業地区であり、自分たちのための医薬分業ではなく、市民のために何が出来るかという考え方で、処方せん調剤のみならず、福祉分野にも薬剤師が参加していったという生の話は、学生にも強く伝わったと思う。但し、使用したスライドの文字が小さすぎて読みにくかったこと、縦横を間違えたスライドが登場するなど、反

省点もあることを指摘しておきたい。眠気ざましには良かったとは思う。第2部は、11期の向井呈一さんを座長として飯島さんと私の3人で「これからの医療と薬剤師」について90分弱でパネルディスカッションを行った。まず、私から医療がどのように変わってきたか、また、どのように変わっていくのかを簡単に説明するところから始めた。その中でインフォームド・コンセントや患者への薬剤師による医薬品情報の提供に関する、全国的に有名になった上田市の医師会と薬剤師会の対立問題の真相を、直接の関係者である飯島さんから詳しく説明があり、大変興味深かった。初めての試みであり、学生も当日になってこのような形式で行われることを知ったのではないかと考えられ、学生からの質問や発言もなく工夫が必要と痛感した。また、薬局関係に時間が集中したため、病院や企業に関係した討論が不足し、初期の目的の50%程度しか達成できなかったことが残念である。来年度も実施できるなら、第2部は、薬局・病院・企業チームの責任者に参加してもらい、講義のPR又はオリエンテーションを兼ねたパネルディスカッションが良いのではないかと個人的に思っている。（石井 記）

## ②「医療の現場から」

(10月25日、11月1日)

中瀬古二郎（10期）済生会平塚病院：医師

林 一夫（9期）都立広尾病院：薬局

柏尾順子（11期）一条会病院：薬局

南雲明美（11期）都立大久保病院：薬局

斎藤正明（12期）国立小児病院：薬局

渡辺義久（18期）横浜労災病院：薬局

### 1. 経歴 昭和47年卒

(1)製薬会社 9月入社

研究所・品質管理課に4年半勤務し、製品・原料の分析と製品分析法の研究をしていました。

(2)入都 昭和52年

◎以前の病院薬剤師は肉体労働が主であったので、学生時代にほとんど勉強しなかった自分に

もなんとか勤まった。しかし今後は医師なみの知識が要求されるので、病院薬剤師を目指す人は、学生の時はもちろん薬剤師になってからも勉強が必要である。

## 2. 病院薬剤師の業務

### (1)調剤 病院薬局のベースとなる業務

- 薬袋書記（処方箋チェック）→散剤・錠剤等調剤→監査→投薬

情報提供義務や薬剤情報提供料の新設による影響

- オーダリングシステムを採用している病院が増えている。

### (2)製剤

#### ○院内製剤の必要性

#### ○予製から特殊製剤へ

#### ○PL法について

### (3)医薬品管理 最近まで唯一の収入部門

#### ○購入、検収、保管、供給

#### ○薬品管理システムについて

### (4)医薬品情報管理（DI） 情報の蓄積・検索

#### ○収集、整理、評価、加工、提供（パソコンの活用）。

#### ○受動的DIから能動的DI（DI誌・医薬品集の発行）へ

### (5)IVH（高カロリー輸液）・TPN（完全静脈栄養）

調製

#### ○無菌調製の方法

#### ○処方設計への提言

### (6)TDM 解析

#### ○薬物血中濃度測定について

#### ○シミュレーションの実際

#### ○至適用法・用量の設定

### (7)服薬指導

#### ○薬歴管理について

#### ○患者への情報提供の実際

#### ○副作用・相互作用のチェックの必要性

#### ○処方設計への参加

## 3. 業務の比重

入都当時 ほとんど調剤（特に外来）のみ

以後 様々な業務が病院薬剤師の業務として導入される。DI、IVH、TDM 等

現在 病棟業務（服薬指導等）に比重が移りつつある。外来は院外処方にして、薬剤師はチーム医療に参加する方向へ。

薬剤師業務の点数化、情報提供の義務付け等が追い風となっている。

## 4. 今後の業務

10月18日に講義があったはずだが、薬剤管理指導業務（900点業務）、薬剤情報提供料（7点業務）等が重要になってくると思われる。

（林 記）

私は、「医療の現場から」ということで、『病棟業務について』の講義をいたしました。病棟業務といつても、病院によりかなりの格差があるため、どの程度のことを話すべきか、どれ程理解してもらえるのか、不安でした。時間は1時間と限られていたので、次の2点を主に話しました。第1は、私の仕事歴を混じえながら、病院薬剤師の業務の移り変わり、そして病棟業務の重要性を。第2は、現在勤務している都立大久保病院での病棟業務を、スライドを使い、具体的に紹介しました。

第1の薬剤師業務の変遷についてですが、私が入都した二十数年前は、調剤業務＝ハサミ調剤といわれた様に、ヒート化された薬品を正しい数量だけ切り、薬袋に入れる作業が大半を占めていました。薬品管理においては効率的な入出庫業務が、薬剤師の仕事として重要視された時期もありました。情報社会が進む中でDI業務も確立されて行き、その後、厚生省の医薬分業における院外処方せんの推進と、社会的に問題となった薬害を防止するための法改正は、服薬指導・病棟業務の移行に拍車をかけ、現在に至っています。

第2の病棟業務内容については、まず薬剤管理指導について説明をし、次に、実際どの様な手順で行うかを教えました。カルテ内容からの情報収集、検査値等のチェック、患者への服薬指導（当院での服薬指導の目的、理念も）、医師・看護婦とのカンファレンス参加、TDMの解析・投与設計（塩酸バンコマイシンのシミュレーションを例として）、指導録の記入法（SOAPについて）、薬歴の見本等をスライドを見せながら説明しました。1～2年生には、少し用語的に難しかった様です。

最後に、現在は、医薬品適正使用においての薬剤師の役割が問われ、薬剤師の存亡がかかっている重要な時期であることを知ってほしい。故に優秀な理科生が、やりがいのある病院薬剤師をめざすように、また、女性にとって都立病院は非常

に条件の良い職場であることも合わせて言わせてもらいました。

(南雲 記)

### ③「地域薬局の現場から」

(11月8日、11月15日)

中村 洋司（3期）田無調剤薬局

飯塚 忍（12期）東銀座薬局

上村 直樹（23期）富士見台調剤薬局

伊集院一成（25期）

11月8日(土)と15日(土)の両日は我々保険調剤薬局のメンバーが担当した、開局薬剤師はの役割—地域薬局の現場から—という表題で、今日の医療改革の激動期における開局薬剤師の役割とはどのようなものか、学生とともに考えてみた。医療現場の最先端で活躍する我々薬剤師が何をして、何を考えているか。ベンチャービジネスとして薬局薬剤師は何を実践しているかをご披露してみた。初日は中村が現在の保険薬局のおかれている状況を説明した。特に『かかりつけ医師』と『かかりつけ薬局』の解説、医療保険と介護保険との関係などについて解説をおこなった。飯塚は保険薬局での薬歴簿の重要性について、実例をあげて説明した。特に、同じ患者さんが異なる医療機関の処方箋を持ち込んだ場合、重複投薬、相互作用のチェックが可能になる。これがかかりつけ薬局の重要な役割である旨解説した。上村は調剤薬局の機械化された仕事場と社会との関わりについて、写真を多く使って説明をした。薬局薬剤師は昔のように調剤室ばかりで仕事をするのではなく、薬局から外に出て多くの時間を社会との関わりなどに裂いている現状を紹介した。伊集院は在宅医療における薬局薬剤師の役割について説明した。薬剤師が臨床の場でどのようなセンスと知識が必要かについて、豊富な経験から解説した。後半はシンポジウム形式にして教室からの質問をうけた。そのなかで、保険薬局の将来はどのようなものか、経営の将来は明るいかなどの質問があった。それぞれのメンバーが自分の考えを述べた。2日目は少し趣を変えてみた。中村は実際にOTCを買いに来た患者にどのように対応するかロールプレイング方式を試みた。薬局がプライマリーケアにどのように対応しているか。またそれにはどのような知識が必要かなどについて所見を述べた。飯塚は今年の日本薬剤師会学術大会に発表した『緑内障禁忌薬の適正使用について』と題し講演した。緑

内障の病態と眼圧をあげることが予想される薬物の解説、実際には緑内障の治療を終えている（手術後）場合の薬物投与について考察をくわえた。上村はアメリカの薬剤師事情について解説した。アメリカの臨床薬剤師の教育内容などについて実際訪問した経験から披露した。また、なぜアメリカの薬剤師は国民から信頼されているかについても考えてみた。伊集院は9月に横浜で行われた『在宅医療を考えるー在宅で死ぬということー』の講演会で発表したものを披露した。在宅終末期医療の現状と薬局薬剤師の関わりについて、また法律の改善の必要性などについても言及した。最後にシンポジウム形式で質疑を行った。特にこれから厳しい社会情勢の中で薬学生はどんな進路を取つたらよいかについて議論した。これからは会社に人生を委ねるのではなく、自分自身を磨き、どこでも通用する薬剤師になり社会に奉仕することが大切になるのではないかとの意見がでた。会社人間はその会社が倒れた場合、社会の役に立つことはできないが、薬剤師として十分腕を磨いていれば怖いものがないということか、など活発な議論展開があり2日も終えた。来年もこの講座に参加し、新方式で臨み、薬学生に我々の仕事をとおして社会に奉仕している姿を紹介したい。

(中村 記)

### ④「医薬品企業の中の薬剤師」

(11月29日、12月6日)

大滝由美子（10期）ツムラ

富田 紀子（3期）東邦薬品

島谷 克義（4期）ファイザー製薬

長野 明（9期）第一製薬

安達 順一（11期）ファルマシアアップジョン

安田 栄一（14期）スミスクライン・ビーチャム製薬

草間 承吉（16期）ファルマシアアップジョン

昨年より始まりました実践社会薬学につきましては、以前よりその必要性を提案させて頂いた一人ですが、大学及びOBの方々が今後の薬学教育のことを考えた上で、このような試みを実行されたことはすばらしいことと思います。

今後は益々実践部分の教育が重要度を増し、社会における即戦力としてどれだけ応えられるかが、大学間又は人材としての差別化に大きく影響を持つことが予想されます。企業もより欧米型になり、企業が教育をつづけてゆくことは、一定レ

ベルまでは行なわれるが、それ以上は不可能にならぬくると思われます。従って在学中にいかに実践に近い事を学ぶため、大学の授業のみならず、学生みずからが体験をつむ努力をしてゆくことが重要となってくるように思います。そのためには目的を定めて、何をしておくべきかを決めて学ぶ必要があると思います。このプログラムがその意味において学生、ひいては薬剤師の質の向上に少しでも役に立つことを望んでおります。

(安達 記)

## 流通における医薬品情報

### —医薬品の適正使用のための情報・医療現場で役に立つ情報—

医薬品を流通している企業の医薬情報担当者として今年入学した学生に何を話したらよいのか迷いました。しかし、企業側の良きコーディネーター大瀧由美子さん（10期）を初め講師予定の方々と集まってミーティングをしているうちに、何を取り上げるか、必要なことは何か等、話に必要なキーワードが出てきました。それを並べてみたところ盛りだくさんなものとなり、しかも用語も分かり易く説明するということでしたので、それだけで持ち時間が終わってしまうものになってしまいました。結局、私は日本の医薬品流通の現状と私の業務である医薬情報を取り上げることにしました。医薬品卸販売業（以下、卸）の情報主管部門が行っている情報の収集、伝達、提供、加工、検討、評価が講義の中心になりますが、情報の整理のためのデータベース化やオンラインネットワークシステムのメンテナンス、情報室のインターネット利用の現状、パソコン環境なども含めた話をしたいと考えています。

薬事法、薬剤師法の情報提供等の規定の改正では従来の調剤業務等の概念が大きく変化したものであり、今、薬剤師はその力量が国民に試されている大切な時です。また、老人医療費の急激な伸び等による医療保険制度や薬価基準制度の改正や抜本的な見直しが予定されている現状について、学生も新聞等より情報を入手することができます。どの学生もいずれは医薬品に係わる仕事に就くと思われます。講義の中では医療に関連した国民医療費、薬剤費、医薬品生産額、医療用医薬品と一般用医薬品の割合などについても触れたいと

思います。日本の医療保険制度はどのようにになっているか、薬剤師は医療の現場にどのようなフィードバックをする必要があるか、具体的な規制・責任は何か、将来どのような薬剤師を目指すのかなど、考えていただくときの参考になればと思います。私の話から、学生が卸の情報担当者の基本的な姿勢—「医薬品の適正使用のための情報提供・医療現場で役に立つ情報提供（患者さんのための情報提供をめざして）」—と流通における医薬情報について理解していただければ幸いです。

(富田 記)

## 実践社会薬学の講義に参加して

平成8年度から開始された実践社会薬学の講義に、平成8年度に引き続き今年度も参加することになった。昨年度は初めて学生を前にして製薬企業で自分が携わってきた仕事を話したが、短い時間の中でどれだけ製薬企業というものを理解してもらえたのだろうかという思いが残った。医薬品にかかる薬剤師の役割は製薬企業を含めて多種多様だが、その中でも、製薬企業では、医薬品が生まれるまでの、様々な生みの苦しみ、生まれてからそれを育していく努力など、これらに携わる人々の多岐にわたる仕事は短い時間では話しきれるものではなく、どうしてもエッセンスにとどまってしまう。だから今年度は、テーマを絞って、もう少しわかりやすく「くすり」について話したいと準備を進めた。これから社会に出て「くすり」とかかわっていく学生の皆さんに、消費者としての「くすり」、医療側からの「くすり」、そして、創る側からの「くすり」と、それぞれの観点からみた「くすり」というものを知って頂き、広い視野にたって物事を見極めることが出来るために少しでもお役に立てればと思っている。

良い「くすり」が、正しく使われ、様々な病気の治療に役立つために、私たちは努力しているが、このことは製薬企業の人間のみならず、医療機関、薬局、そして患者本人の努力も大切だということを認識してもらいたいと考えている。

その意味で、この実践社会薬学という講座を通して学生の皆さんとコミュニケーション出来ることは大変有意義なことと思っている。これからも、この講座が続けられ、新しい情報を学生の皆さんに提供していくことが出来ることを望んでいる。

(大瀧 記)

## 1996年度 会計報告

東京理科大学薬学部同窓会

1996年4月1日-1997年3月31日

| 収入の部  |           | 支出の部   |                 |
|-------|-----------|--------|-----------------|
| 内 訳   | 金 額       | 内 訳    | 金 額             |
| 同窓会費  | 2,530,000 | 電話代    | 38,558          |
| 寄付その他 | 14,600    | 人件費    | 731,920         |
| 利息    | 52,833    | 事務用品代  | 61,906          |
|       |           | 通信費    | 928,174         |
|       |           | 会議費    | 8,994           |
|       |           | 会誌発行費  | 135,857         |
|       |           | コンピュータ | 480,000         |
|       |           | その他    | 326,477         |
| 合 計   | 2,597,433 | 合 計    | 2,711,886       |
|       |           | 前年度繰越金 | 24,285,480      |
|       |           | 今年度残高  | △114,453        |
|       |           | 本年度繰越金 | 24,171,027      |
|       |           | 内訳     | 定期預金 10,000,000 |
|       |           |        | 郵便定期 11,573,888 |
|       |           |        | 普通預貯金 2,597,139 |

以上の通り会計報告いたします。

1997年7月10日

会計

牧野 公子  
和田 浩志



## 監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

1997年7月15日

会計監査

池北 雅彦  
岡宮 智子





同窓会総会 特別講演

## 「Disclosure」～医薬品情報開示と薬剤師～

日本薬剤師会・常務理事 佐谷 圭一

1995年1月16日の未明に起こった阪神大震災は、時間が経つにつれその悲惨さがあらわになった。当初、このような時に薬剤師が必要なのかとの声があったが、救援物資が山と詰まれた消防学校校庭では、薬剤師以外では誰も医薬品の出納管理ができなかった。

以後、保健所、救護所等薬剤師の医薬品管理業務は拡大していった。神戸市内に設置された救護班は120ヶ所にのぼり、その多くが持病のクスリを求める患者で頭を悩ました。飲みきってしまったクスリの名前を知っている患者は殆どいなかつたからだ。

ここでも薬剤師は活躍した。剤形や症状から患者のクスリを推定し、医師の許可を得て救護所の手持ちの同種同効薬を渡したのだ。

ボランティアで参加した薬剤師は二千数百人、誰もが調剤薬のDisclosure（開示）の重要性を痛感した出来事だった。

側近の反逆に苦しみながら没したと伝えられる神聖ローマ帝国皇帝フリードリッヒ二世は、中世きっての文化人であったが、いつも毒殺の危険を感じていたという。当時、毒味役が役に立たない毒が二つあった。

一つは食事に入れられて徐々に効いてくる毒・砒素であり、もう一つは病気で苦しんでいる時に反逆者側についた宮廷医に一服盛られることであったという。砒素への防御は、銀との反応で変色することが判り銀食器の使用でけりがついたが、侍医対策には時間がかかった。結局、1240年、皇帝46歳の時解決策が見つかり、これを「五ヶ条の法令」として発布する。世に言う医薬分業法であ

る。その第1条に曰く。「医師は薬室を持つことを禁ずる。また、薬剤師との共同経営を禁ずる」と。いまでいう院外処方せんは、患者本人への治療薬に関するDisclosureであり、医療訴訟時には重要な証拠物件ともなる。

明治4年、明治政府の招きで来日したオーストリア医科大学のミュルレル教授は、薬剤師教育を建言した。その建白書に曰く「ドイツでは薬剤のこととは、医師は皆素人である。もし日本政府にしてドイツ医学を普及せんと欲すれば、早急にドイツから薬学の教授を招き、薬学教育を始めて、薬剤師を作るべし」と。これを受け明治6年、東大（当時は東校）の中に薬学指導者養成機関としての製薬学科が設置された。

次いで、明治6年5月（1873）、大学東校のドイツ人教師ヘルマンの答申に基づいて文部省は「薬剤取調之法」28項の施行方を太政官へ具申した。

その第10条に曰く。

「從來医家より薬品を売るを禁止し、医家の書記せる方書（処方せん）を薬舗（薬局）に送るべし。但し当分の形勢未だ医家の法則一定せざる間は、医家自ら薬剤を病者に与ふるを許す～」と。また、翌明治7年8月、追い打ちをかけて文部省は「医制」を発布する。

第41条に曰く。

「医師タル者ハ自ラ薬ヲ鬻ク（ひさぐ=売る）コトヲ禁ス。医師ハ処方書ヲ病家ニ付与シ相当ノ診察料ヲ受クヘシ」

第43条に曰く

「医師、私カニ薬剤ヲ鬻キ或イハ薬舗ニ通シテ奸利ヲ謀ルモノハ開業ヲ禁止シ文部省及ヒ地方庁

ニテ某事由ヲ報告スヘシ」と。

この明治7年の「医制」発布をもって、我が日本国も形だけは医薬分業国となつたが、この時残念ながら薬剤師の数はゼロにして「当分の形勢未だ～」(Disclosureされない) 状態はそれから一世紀近くにわたつて続くのである。

平成6年度（2年毎調査、平成8年結果はまだ未発表）の薬剤師調査によれば、届け出薬剤師数は、176,871人でこれは薬剤師登録者の約70%と見られている。従つて、この時点では、約25万人の生存薬剤師がいることになる。また、平成8年度中に発行された院外処方せん枚数は約3億枚と

みられ、医薬分業率は22%強であった。

日本における医薬分業は、昭和49年（1974年）処方せん料が50点になったのを機に進み始め、平成に入ってから驚異的に進展している。これは薬価差等の縮小政策にもよるが、薬歴管理・服薬指導・薬剤情報提供など薬局薬剤師による医薬品情報面からの安全管理が、処方発行医と患者から支持されてきた結果に他ならない。だが、時代の欲求は果てしない。今、時代が要求しているのは、処方せんによるDisclosureどころか、レセプト（保険請求書）やカルテという医療内容そのもののDisclosureなのである。（おわり）

## 会則の改定

### 東京理科大学薬学部同窓会会則

#### 第1章 総 則

##### (名 称)

第1条 本会は東京理科大学薬学部同窓会と称する。  
(事務所の所在地)

第2条 本会は事務所を東京都新宿区市谷船河原町  
12番地 東京理科大学薬学部におく。

##### (目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦を厚くし、会員の教育、学識及び職能の向上を図るとともに、東京理科大学薬学部の教育及び研究の発展に寄与することを目的とする。

##### (事 業)

第4条 本会は上記の目的達成のため次の事業を行う。

1. 本会の目的遂行のため必要な印刷物の発行
2. 研究会、講演会、その他各種集会の開催
3. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

#### 第2章 会 員

##### (会員の資格)

第5条 本会は次の会員をもつて構成する。

1. 正会員 東京理科大学薬学部の卒業者及び大学院修了者
2. 準会員 本学薬学部に在籍する学生
3. 特別会員 本薬学部現及び元職員及び本学薬学部出身者以外で本会の目的に賛同され、幹事会で承認されたもの（但し、正会員であるものは除く）

##### (会員の義務及び権利)

第6条 会員は会則第3条の趣旨にのっとり、会長

その他の要請に応じ本会の事業に協力しなければならない。

2. 会員は本会において定める入会金を納めなければならない。
3. 会員は氏名、住所、職業など身上に異動を生じた時には、遅滞なく本部に報告しなければならない。
4. 年会費を納めた会員は本会の事業に参加することができる。

#### 第3章 役 員

##### (役員の種類)

第7条 本会には次の役員をおく

- 会長1名 幹事会に於いて正会員の中より推薦し、総会の承認を得るものとする。  
副会長4名 会長が正会員より推薦し、総会の承認を得るものとする。  
常任幹事数名 幹事より互選する。  
幹事 原則として各卒業年度それぞれ2名を正会員より選出する。（薬学科、製薬学科各1名を原則とする）  
監査役2名 総会の承認を得るものとする。

##### (役員の職務)

第8条 各役員の会務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を統理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
3. 幹事は幹事会を組織し、本会の運営を統轄し、管理する。
4. 常任幹事は常任幹事会を組織し、常時本会の運営及び事務を執行・処理する。
5. 監査役は常任幹事会に出席し、会計その他を監査する。

(役員の任期)

第9条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。但し、補欠役員の任期は前任者の残存期間とする。

第4章 会議

(会議の種別)

第10条 本会の会議は、総会、常任幹事会及び幹事會とする。

(総会)

第11条 総会は次の場合に開かれる。

1. 定期総会毎年1回会長が招集する。
2. 臨時総会幹事会が必要と認めたとき及び全員数の2割に当たる正会員が特に開催を請求したとき。

(幹事会)

第12条 幹事会は、会長、副会長及び幹事で構成し、必要に応じて会長がこれを招集する。

(常任幹事会)

第13条 常任幹事会は、会長、副会長及び常任幹事で構成し、必要に応じて会長がこれを招集する。なお、本会は役員の2/3以上の出席をもって成立する。

(会議の議決)

第14条 総会、幹事会及び常任幹事会の議決は、出席正会員の過半数の同意をもって成立する。可否同数のときは議長の決するところによる。

(幹事会及び総会の議長・副議長)

第15条 幹事会及び総会の議長・副議長は幹事会および総会においてそれぞれ正会員中より選出される。

(常任幹事会の議長)

第16条 常任幹事会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の承認事項)

第17条 次の事項は総会の承認を得なければならぬ。

1. 会長・副会長・監査役の選任

2. 事業計画及び収支予算
3. 事業報告及び収支決算
4. その他常任幹事会が必要と認めた事項

(会議の記録)

第17条の2 議長は各会議における経過について、これを記録しなければならない。

第5章 庁務及び会計

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第19条 本会の経費は原則として会費及び寄付金・その他をもってこれにあてる

(会費)

第20条 会費は、入会金20,000円、年会費1,000円(5年に1度、5,000円を徴収)とする。

終身会員は、入会金を含め50,000円とする。

なお、会員の一親等親族および会員の配偶者の会費は1/2とする。

第6章 会則の改正

(会則の改正)

第21条 本会則の改正は、正会員がこれを必要と認めた場合、改正案を幹事会に提出し承認を経て総会にはかることができる。この場合、総会への提案者は幹事会とする。

付 則(平成9年7月19日改正)

第1条 会則は平成9年7月19日より施行する。なお、別途認めてきた会費の特別措置は平成10年3月31日までとする。

## 同期会だより

### 11期・12期の同期会

小暮 渉 (11期)

10月4日(土)は「薬学講座」の日。毎回女性の出席者が多く、家庭の主婦に納まっていた同窓生の多くが薬剤師としてもう一度社会に出て行く気運の高まりを感じる。私たちの世代は、子育てもそろそろ卒業(子供の方が親の相手をしてくれなくなってきた)の時期を迎えており、毎年同期の仲良しを誘い合って出席しているグループもある。今回の同期会は、このような人たちや遠方の人たちが出席しやすいように、特に「薬学講座」



の日の夕方からという設定。

5年前に卒業後初めての同期会を開いてから、今回で3回目。名簿は薬学部同窓会事務局に最新データがあるので、それを利用させて頂いて、宛名のシート（どちらも多少の費用はかかるが、非常に便利）もプリントして頂いたから、幹事は楽なものである。

去年から始まった「実践社会薬学」の講義（薬学部同窓会が主催し、大学の協力を得て、卒業生が学部学生に講義する）に積極的に参加してくれている石井甲一君、向井呈一君、久保田（旧姓秋山）昭恵さん、南雲（奥野）明美さん、柏尾（野方）順子さん、安達順一君（以上が11期）、飯塚忍君、長野県上田市からは飯島康典君（12期）。これらの人たちとは、打合せなどでお会いする機会も多かったので、自然に同期会の幹事としてお手伝い頂くことになった。在京の他の同期生数人も、毎度のように幹事を引き受けてくれる。

会場の「出版クラブ会館」は、料理が美味しいことでは定評のあるところだが、20数年振りに顔を合わせたなつかしい友達や、むかし秘かにあこがれていた人（今や自分はオジさんとなり、相手も相応に年をとっているので抵抗がない？失

礼！）との話しに夢中で、あっという間に楽しい時間は過ぎ、山ほど料理が残る結果となる。前回も余った。

二次会にも、ほとんど全員がそのまま参加して（これも前回、前々回と同じ）、ここでも料理が山ほど残るくらい、しゃべりまくる。

それでも話しきり足りない20人ほどが、カラオケに向かう。ここでも歌などを聴いている人はおらず、またまたしゃべる。

というわけで、しゃべりまくって、いつしか深夜となり、名残りを惜しみながら散会。

池北雅彦君（12期生幹事、薬学部同窓会副会長）、また次回も一緒にやりましょうね。



## 同窓会役員名簿

|       |            |        |
|-------|------------|--------|
| 会長    | 小原 侃 (1)   | 実践社会薬学 |
| 副会長   | 黒崎 浩巳 (1)  |        |
|       | 山口 稲子 (2)  |        |
|       | 中村 洋司 (3)  |        |
|       | 池北 雅彦 (12) |        |
| 監査    | 安達 順一 (11) |        |
|       | 岡宮 智子 (11) |        |
| 会計    | 池北 雅彦 (12) | 企画     |
|       | 村松 延弘 (9)  |        |
| 会報・記録 | 池北 雅彦 (12) |        |
|       | 武尾 勝司 (9)  |        |

|            |               |
|------------|---------------|
| 湯田 康勝 (5)  | 上村 直樹 (23)    |
| 小暮 渉 (11)  | 伊集院一成 (25)    |
| 菅原 伸治 (15) | 名簿 (コンピュータ担当) |
| 渡辺 宏二 (18) | 山口 稲子 (2)     |
| 中村 洋司 (3)  | 石坂 隆史         |
| 石井 賢二 (7)  | (大学院)         |
| 寺山 博行 (7)  | 事務局 山口 稲子 (2) |
| 石井 甲一 (11) | 同窓会総会 (講演会)   |
| 黒崎 浩巳 (1)  | 5期幹事          |
| 宇留野 強 (4)  | (湯田 康勝)       |
| 奥村 成太 (8)  |               |

## 同窓会幹事連絡先

(1997年7月現在)

|   |       |              |                       |
|---|-------|--------------|-----------------------|
| 期 | 氏名    | 電話           | 島田 博子 0489-86-2969    |
| 1 | 小原 侃  | 03-3364-4858 | 山川 洋志 03-3427-6567    |
|   | 黒崎 浩巳 | 0475-24-9270 | 湯田 康勝 048-864-3982    |
|   | 光井 英基 | 0764-51-2763 | 野村 恵美 047-354-0269    |
|   | 山口堅志郎 | 0423-74-2102 | 飯田 典子 03-3334-7857    |
| 2 | 日比野 貢 | 0474-84-8057 | 石井 賢二 0424-74-9145    |
|   | 山口 稲子 | 03-3680-0395 | 寺山 博行 048-685-9383    |
| 3 | 金 康子  | 03-3391-8670 | 7 野村 恵美 047-354-0269  |
|   | 中村 洋司 | 0422-44-2744 | 8 村松 延弘 0471-24-0724  |
| 4 | 池田 幸雄 | 0438-41-6587 | 9 武尾 勝司 0492-32-5702  |
|   | 宇留野 強 | 0297-52-0421 | 10 吉野 晃司 045-381-4543 |
|   | 島谷 克義 | 0424-64-2556 | 11 安達 順一 045-623-5565 |
|   | 降矢美智子 | 0462-56-1972 | 12 石井 甲一 03-3412-1618 |
| 5 | 角田 公恵 | 03-3300-1834 | 岡宮 智子 03-3336-6060    |

|                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 小暮 渉 0463-31-0813     | 23 上村 直樹 0425-77-1655 |
| 向井 呈一 0471-43-1029    | 小安 純子 0427-99-0414    |
| 12 飯塚 忍 043-287-5152  | 24                    |
| 池北 雅彦 03-3418-8586    | 25 伊集院一成 0424-69-3050 |
| 波田野和子 0474-83-6592    | 26                    |
| 浜野 朋子 03-3904-8578    | 27 工藤 菜美 044-852-9580 |
| 田村 哲彦 047-321-3823    | 前田 真 03-5762-1232     |
| 菅原 伸治 045-301-3216    | 28                    |
| 中川 理恵 0471-83-4130    | 29 大滝 充 03-5351-5526  |
| 16                    | 神谷 貞浩 03-3388-6705    |
| 17                    | 30 大滝 希美 03-5351-5526 |
| 18 渡辺 宏二 0423-71-3119 | 若林 政義 03-3949-5516    |
| 19                    | 31                    |
| 20                    | 32                    |
| 21                    | 33                    |
| 22 小川 政彦 0492-48-7259 | 大学院                   |
| 和田 和裕 0425-81-2305    | 石坂 隆史 03-3716-8224    |

# 歩こう会

## 神楽坂散策の誘い

創立から116年、神楽坂で91年を迎えた東京理科大学。薬学部も37年を迎えました。

古くは夏目漱石、泉鏡花、北原白秋などが愛した町、神楽坂。時代が変わっても、古き良き伝統の残っている町です。

懐かしさを訪ねて友人と、または御家族でのんびりと散策をしてみませんか。

日 時：3月15日(日) 10:00

集合場所：セントラルプラザ広場

JR飯田橋駅西口右折

※当日、神楽坂案内図と散策モデルコースをお渡しいたします。

雨天中止。

## 投稿の受付

### 同期会だより投稿案内

同期会を開催されましたら、ぜひ同窓会会報に投稿してください。字数制限は特にございませんが、なるべく多くの同期会だよりを掲載したいと思いますので、写真（250字程度に計算）を含めて800字以内でお願いします。

写真は返却致します。

### 同期会開催を同窓会がお手伝いいたします

同窓会では会員名簿を本部のコンピューターで管理しております。同期会を開く予定の幹事さんに最新のデータを元にした各期の名簿一覧と宛名用シールを送付することが出来ます。ご希望の幹事さんは下記のことを記入した葉書を同窓会事務局までお送り下さい。2週間ほどで名簿一覧と宛名シール各一部を有料（1期分3000円）でお送りいたします。

記入事項：幹事氏名、卒業年、郵送先の郵便番号、住所、連絡先電話番号（昼間）

### 訃報

4期 折原昭太郎

先の同窓生が、お亡くなりになりました。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### 編集後記

会報第10号を発行するにあたり、大学の近況を会員並びにご協力いただいた皆様にお報らせすることになりました。同窓会も設立10年の節目となり、また本年4月より薬事法、薬剤師法も改正され、ますます薬剤師の社会的使命と義務範囲が拡大されました。会員間での情報の共有化も必要となっています。卒前卒後の生涯教育研修「薬学講座」も同窓会が協賛しています。多くの同窓生の交流の場として、より多くの方々の参加を期待しています。

＜会報担当幹事：武尾勝司（9期）〔編集委員長〕、湯田康勝（5期）、小暮渉（11期）、池北雅彦（12期）、菅原伸治（15期）、渡辺宏二（18期）＞